

薬剤師確保のための事業について

(1)背景

少子高齢化の更なる進行や人口減少地域が増大することが予測される中で、人口構造の変化や地域の実情に応じた医薬品提供体制を確保することが求められている。

また、薬剤師の業務・役割は、調剤だけでなく病棟薬剤業務やチーム医療、在宅医療への参加など多岐にわたり、薬剤師の確保・充実が求められている。

その様な中、薬剤師の従事先には業態や地域に偏在があり、特に病院薬剤師の不足が喫緊の課題となっていることから、地域の実情に応じた薬剤師の確保策について、医療計画(8期計画)に可能な限り具体的に記載することとされた。

都道府県 (二次医療圏名)	現在(令和4(2022)年)の 病院・薬局別薬剤師偏在指標			将来(令和18(2036)年度)の 病院・薬局別薬剤師偏在指標		
	病院薬剤師 偏在指標	薬局薬剤師 偏在指標	地域別薬剤師 偏在指標	病院薬剤師 偏在指標	薬局薬剤師 偏在指標	地域別薬剤師 偏在指標
全 国	0.80	1.08	0.99	0.82	1.22	1.09
栃木県	0.69	1.04	0.93	0.72	1.19	1.04
県 北	0.67	0.78	0.75	0.69	0.93	0.86
県 西	0.63	0.78	0.74	0.72	1.03	0.94
宇都宮	0.62	1.14	0.98	0.61	1.20	1.01
県 東	0.74	0.88	0.85	0.80	1.10	1.03
県 南	0.87	1.25	1.12	0.87	1.39	1.20
両 毛	0.60	1.06	0.92	0.67	1.31	1.10

【薬剤師偏在指標等について（令和5年6月9日付厚生労働省医薬・生活衛生局総務課事務連絡）】

(2)事業内容

薬剤師の地域偏在や業態偏在の解消を図る目的として次の3つの事業を実施する。

i 中・高校生へのPR

ii 薬学生を対象としたマッチング

iii 病院薬剤師の人材育成

(3)事業内容

i 中・高校生へのPR (ア) 薬剤師業務体験

【概要】中・高校生を対象として、病院や薬局における薬剤師業務の内容やその魅力への理解を深める。

【内容】会場：国際医療福祉大学 薬学部（「中学生の部」と「高校生の部」を別教室で実施）

／ 対象者：県内の中学3年生(30人)、高校2年生(30人) 計60人

／ 実施日時：8月24日(土)または、25日(日)

／ 申込方法：申込書を作成し、主に県内の中学3年生及び高校2年生に配布する。

時間	中学生の部	講師	教室	所要時間	高校生の部	講師	教室	所要時間
13時 ～13時10分	開校式・ 薬剤師の紹介(薬務課)	薬務課 職員	A	10分	開校式・ 薬剤師の紹介(薬務課)	薬務課 職員	A	10分
13時10分 ～13時20分	病院における薬剤師の業務紹介	県病薬	A	10分	薬局における薬剤師の業務紹介	県薬	B	10分
13時20分 ～13時30分	薬局における薬剤師の業務紹介	県薬	A	10分	病院における薬剤師の業務紹介	県病薬	B	10分
13時30分 ～14時10分	調剤業務体験(散剤)	県病薬 ・県薬	C	40分	調剤業務体験(軟膏)	県病薬 ・県薬	D	40分
14時10分 ～14時50分	調剤業務体験(軟膏)	県病薬 ・県薬	D	40分	調剤業務体験(散剤)	県病薬 ・県薬	C	40分
14時50分 ～15時30分	調剤業務体験(液剤)	県病薬 ・県薬	E	40分	化学講義	大学 教員	F	40分
15時30分 ～15時40分	閉校式	薬務課 職員	E	10分	大学紹介	大学 職員	F	10分
15時40分 ～15時50分					閉校式	薬務課 職員	A	10分

○ 調剤業務体験ができる教室

○ 備品

(薬剤師業務体験内容)

散 剤 → はかり、乳鉢、乳棒、分包機の手技に挑戦

液 剤 → メートルガラスの手技に挑戦

軟膏剤 → 軟膏板、へら、軟膏つぼ充てんの手技に挑戦

用意する消耗品

○ 重曹、ワセリン、薬袋、軟膏壺、投薬瓶、ディスポガウン

その他

○ 会員に講師を務めていただきたい。

(散剤、軟膏、液剤を学生相手に講義、実習できる方、液剤は中学生のみ)

(例：県薬2グループ、病薬1グループ/講師+補助者=3～4名) 2

○ 調剤体験は、40分/時限 ○ 最大で30人/クラス

ii 薬学生等を対象としたマッチング

(ア) 薬学生向け就職案内PR

薬学生にUIターンを促す就職案内パンフレットを作成し、近隣大学に配布する。

パンフレットには、病院及び薬局紹介HPへ誘導する二次元バーコード等の就職先情報を掲載する。

(イ) 合同就職説明会の開催

・会場: ライトキューブ宇都宮

・参加病院、薬局数: 50施設

・招待者: 関東圏内の薬学生(保護者) 約1,000人

(ウ) 求人案内の掲載から就職までの一元支援

県薬剤師会の薬剤師バンク「薬剤師無料職業紹介所」を活用して各薬局、病院の求人情報を登録発信

iii 病院薬剤師の人材育成(栃木県病院薬剤師会に事業を委託) 181,000円

(ア) 病院薬剤師に対するキャリアアップ支援研修

【事業概要】病院薬剤師の離職も多いことから、病院薬剤師として自らのキャリアプランや、やりがいを感じられる業務を実現するためのセミナーを開催する。

【参加者数】200人

【開催回数】2回/年

【内 容】臨床薬学の基礎と応用的知識の取得/病院の薬局部門の管理、運営に必要な能力開発 等

iv その他

(ア) 意見交換会の開催(年2回)

薬剤師確保に関して、課題や県の支援策等について県、県薬、病薬で意見交換会を行う。

また、オブザーバーとして国際医療福祉大学に薬学生の進路状況等を情報提供、助言を受ける。

【内 容】

・会場は、宇都宮市内を想定 / 2回/年(5月、10月)実施予定

以下のことについて、情報・意見交換を行う。

・学生の就職先について ・事業に対するご意見 ・これから実施するべき事業 など

災害薬事コーディネーターについて

対応方針及びスケジュール

①災害薬事コーディネーターの設置に向けた調整

- ・庁内関係課、県薬剤師会等関係団体・部署等との事前調整(R6.4～)
- ・災害薬事コーディネーター設置要綱(仮称)の策定(R7.4.1施行予定)
- ・災害支援薬剤師活動支援マニュアル(仮称)の作成(R7.4.1施行予定)

②災害薬事コーディネーター及び災害支援薬剤師の養成

(1)災害薬事コーディネーター研修(令和6年度～)

【対象】栃木県薬剤師会から推薦を受けた薬剤師(2名)

【内容】災害薬事コーディネーターの役割を理解し、過去事例に基づき本部でのサポート活動をシュミレートするため先進地(宮城県薬剤師会)視察派遣

【実施回数】 1回

(2)災害支援薬剤師の養成(令和6年度～)

【対象】各地区の中心的役割となる者として地区薬剤師会や病院薬剤師から推薦を受けた薬剤師及び行政薬剤師(50名)

【内容】災害時に薬剤師が行う医療救護活動等について理解する。

初年度は講義メイン、2年目以降は講義+グループワークを予定

【参加者】 50名

【実施回数】 1回/年

③災害時活動支援検討会の開催

【構成員】県薬、地域薬剤師会、病院薬剤師会から推薦された薬剤師(20名)

【目的】災害支援薬剤師が、災害時に円滑に活動するための「災害支援薬剤師活動マニュアル(仮称)」の作成や連絡体制を構築

【開催回数】 2回

備考

「災害薬事コーディネーター」とは

災害時に、都道府県並びに保健所及び市町村が行う保健医療活動における薬事に関する課題解決のため、都道府県が設置する保健医療福祉調整本部並びに保健所及び市町村における保健医療活動の調整等を担う本部において、被災地の医薬品等や薬剤師及び薬事・衛生面に関する情報の把握やマッチング等を行うことを目的として、都道府県において任命された薬剤師である。

栃木県における災害薬事コーディネーターの役割(案)

保健医療福祉調整本部

災害医療コーディネーター

医療ニーズと医療資源のマッチング

連携

災害薬事コーディネーター

- ・医薬品及び薬剤師に関するニーズの把握
- ・医薬品の供給及び薬剤師派遣の調整
- ・平時からの活動体制の整備

派遣依頼

連携

栃木県薬剤師会

派遣調整

災害時の医療救護活動(薬剤師)

災害拠点病院

薬剤師業務の支援

被災薬局

調剤業務の支援

救護所

調剤業務
服薬指導
医薬品管理

避難所

避難者の健康管理
(服薬状況)
施設の衛生管理

医薬品集積所

支援物資(医薬品)の管理
(仕分・供給)

